

35 過去10年間の脳血管障害・頭部外傷患者の動向について

病院看護部 高橋美枝子 堤 美穂 田村玉美

【はじめに】

当院では脳血管障害による脳卒中および頭部外傷による障害者の身体機能の回復、社会生活の自立に向けてリハビリテーションに取り組んでいる。リハビリテーションを行った障害者の入退院までの経過は年度ごとにまとめられている。今回、過去10年間における脳血管障害、頭部外傷患者の動向を調査したので報告する。

【目的】

当院に入院した脳血管障害患者・頭部外傷患者の入院の背景、退院先を調査し動向を明らかにする。

【調査方法】

対象者：平成13年4月から平成22年3月までに当院を退院した脳梗塞患者591名、
クモ膜下出血患者184名、脳出血患者655名、頭部外傷患者373名 計1,803名
方 法：入退院台帳、診療録、リハビリテーションデータベースより情報を収集した。

【結果】

対象者1,803名のうち脳血管障害者を脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血の疾患別にまとめた。その割合は脳出血36.3%、脳梗塞32.8%、クモ膜下出血10.2%で頭部外傷患者は20.7%であった。平成16年から高次脳機能障害モデル事業の開始により頭部外傷患者は平成13年度の11.3%から平成18年度には24.0%とほぼ2倍に増加した。

障害による片麻痺患者の割合は右片麻痺54.9%で左片麻痺45.1%であった。

性別では男性が72%、女性が28%でどの疾患においても男女比に大きな差はみられなかった。

年齢構成では50・60歳代の脳出血・クモ膜下出血・脳梗塞をしめる割合が多く、脳出血の50・60歳代の割合は58.6%、クモ膜下出血59.2%、脳梗塞59.4%であった。頭部外傷では20歳代が22.3%と最も多くを占めるが、次に50歳代が17.4%、60歳代が13.9%と続き脳血管障害以外でも50・60歳代の割合が高かった。

退院先は、自宅が平成13年度の58.1%から平成22年度には75.8%に増加した。全体では73%が自宅に退院している。平成12年から介護保険制度が開始されてから自宅への退院復帰が増加傾向にある。

【まとめ】

- 1、 脳血管障害、頭部外傷者は70%が男性である。
- 2、 脳梗塞、クモ膜下出血、脳出血、頭部外傷者は50・60歳代の割合が高い。
- 3、 退院患者の自宅復帰率が高くなっている。